

子ども大学かわごえ CUK だより

第30号 NO.120609

2012年6月9日

地域で遊んで学ぶキャリア教育

酒井一郎

第3回学園祭「ミニかわごえ」こどものまち

日時 平成24年3月10日・11日

場所 川越市内蓮馨寺境内

前日の9日（金）は終日雨に降られ、開会初日の10日も朝から雨模様でしたが、1時間遅れの11時開会のころから雨も小やみになり、無事開会式を行うことができました。テープカットが（写真右から）糸原恒久副実行委員長、角野俊太郎子ども実行委員長、酒井一郎実行委員長代理の3人によって行われ、無事開会の幕が切って落とされました。



開場前から待ちかねた子どもたちが市民登録所の前で行列をつくっていましたが、特設市民登録所で入場料500円を払い、市民・仕事カードを受け取ると、次いで職業紹介所へ行き、自分の好きな職業を選んで仕事場へ向かいました。

こどものまちの中は3つの区画からなっており、「モノづくりの地区」「学校・公共の地区」「食べもの・ゲームの消費地区」のそれぞれには次のような店舗がありました。

<ものづくりの地区>

飛行機製作所、看板工房、丸太切り作業所、焼き絵工房、コースター作り、LEDライト製作、金属模型分解・組み立て、シュッシュ製作、ヘアサロン、ファンシーショップなど。

<学校・公共地区>

英語教室、絵画教室、ダンス教室、新聞社、放送局、市民登録所、職業紹介所など。

<食べもの地区>

うどん、カレー、アメリカンドッグ、焼きそば、フライドポテト、ポップコーン、わたあめ、味噌おでん、きのこ汁、クッキー、焼いも、駄菓子など。



<ゲーム地区>

ボーリング、輪投げ、ボールころがし、空き缶積み、射的、キャラすくい、さかな釣り、ダーツ、宝くじなど。

このこどものまちの中で子ども市民は勝手な行動をするわけにはいきません。次のようなルールに従って行動することになります。

①市民登録所で招待券を渡し、500円入場券を払うと、「ミニかわごえ」市民として市民・仕事カードを受け取ります。次に職業紹介所へ行って自分の好きな仕事（例えば飛行機製作）を選んで働きます。働き終わったら工場長に仕事カードを渡して何時間働いたと証明してもらいます。

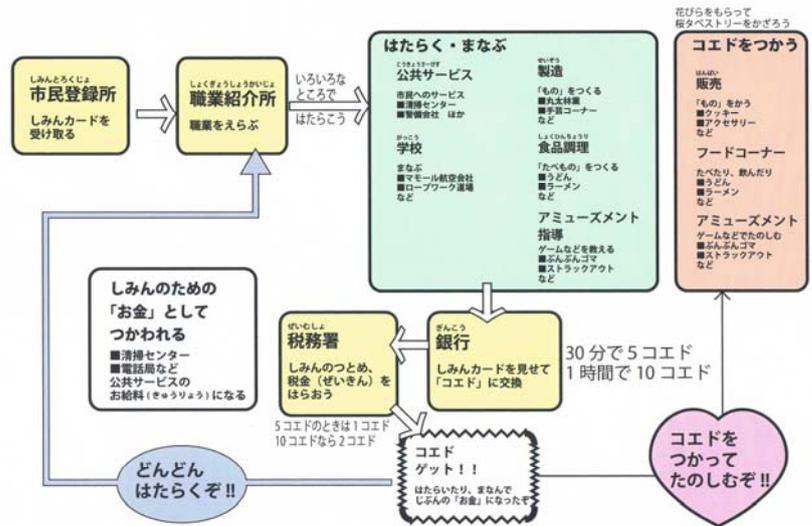
②証明してもらった仕事カードを銀行へ持って行って見せると、地域通貨コエドをくれます。例えば、1時間の労働に対して10コエド、30分の労働に対して5コエドもらいます。

③隣の税務署で20%の所得税を払います。10コエドの所得に対して2コエド、5コエドに対して1コエドを払います。

④税金を払った後のおカネは食べものやゲームに自由に使います。

⑤おカネがなくなったらそのまま帰ってもよいのですが、大抵の子どもは何度も職業紹介所へ行って労働と消費の活動を繰り返します。

これらの様子を図で表現すると上の図のようになります。



みんなあちこちの店舗・仕事場で一生懸命に働いていましたが、正午過ぎになると市長選挙が始まりました。この市長選挙は今回初めて実行されることになり、小学2年生から6年生まで6人の子どもが立候補を表明、立会演説会で税金を安くするとか、それぞれの抱負を述べました。立会演説をしたのち設置された投票箱へ投票する作業に入り、開票の結果、小学校2年生の中原悠さんが市長に選出されました。



川越ケーブルテレビがミニ放送局を出展していましたので、この選挙の様子を克明に記録にとっていました。

以上のように選挙を行ったり、お店で働いたり、空腹を満たしている間にも、城西川越中学校の生徒諸君が和太鼓『櫂』を演奏して雰囲気盛り上げてくれました。

翌11日は朝から天気がよく予定通り10時に開場となりました。やはり職業紹介所は最初から満員で、仕事を待つ子どもたちで長蛇の列ができました。

今日は前日卒業式で参加できなかった埼玉県立川越工業高校の5つの学科から生徒と教師が50人以上参加して、リサイクルペットボトルを利用した紙かご、木製コースター、LEDライトなどを作るため子どもたちを指導したり手助けをしました。機械科はミニSLを出展し、子どもや大人を乗せてみんなを喜ばせました。



リサイクルペットボトルを利用した紙かご、木製コースター、LEDライトなどを作るため子どもたちを指導したり手助けをしました。機械科はミニSLを出展し、子どもや大人を乗せてみんなを喜ばせました。

昨日は城西川越中学の生徒が大勢参加してくれましたが、今日は高階中学校から50人近い生徒と先生が参加し、生徒たちは「よさこい鳴る子おどり」の演舞を何度も披露し、観客を魅了しました。演舞の間何人かの生徒たちは「よさこい教室」を開いて子どもたちを指導しました。



今日は川合嘉明川越市長が来訪され、中原悠こどものまち市長の案内で、いくつものブースを訪問し、筆立て紙かごを作ったり、焼き絵教室で焼き絵をしたり、絵画教室で東関東震災者への激励の幔幕に「望」と大書し、またミニSLへも試乗しました。

午後2時46分に蓮馨寺の鐘楼から東日本大震災の鎮魂の鐘が打ち鳴らされ、会場にいた200人以上の子どもと大人が犠牲者の冥福を祈って黙とうを捧げました。

こどものまちはその後も大勢の子どもや大人で賑わいました。閉会の4時近くなると、早く手持ちのコエドを使うため子どもたちがポップコーンなどの食べもの屋の前に行列をつくったり、宝くじを買ったり、忙しく動き回っていました。

その間、子どもたちに「ミニかわごえ」はどうだったかというアンケート調査を行い、500以上の回答がありました。結果は、64%の子どもが「大変楽しかった」と答え、35%の子どもが「楽しかった」と回答していました。

このようにして子どもと大人の実行委員会が12月から準備した「ミニかわごえ」は賑やかに幕を閉じました。1日目に501人の子どもが来場し、2日目は720人の子どもが訪れました。第1回「ミニかわごえ」の来場者は2日で600人でしたので（第2回目は東日本大震災のため突然中止）、2倍近い子どもが訪れたことになります。そのため職業紹介所に仕事を求める子どもの行列ができ、運営上の課題を残しました。



ところで「ミニかわごえ」につき大人の来訪者から2つの質問がありました。
質問1：「ミニかわごえ」は日本各地で開催されている学校祭や子ども祭りとはどこか違うか？

答えは次のようになります。

- ① 企画・運営主体が子どもである
- ② 店舗の運営は子どもがやる
- ③ 子どもたちは働いてお金を稼ぐことができる
- ④ まちの中で地域通貨「コエド」が流通する
- ⑤ まちの中に職業紹介所や銀行や税務所がある
- ⑥ 働いてお金を稼いだり、店を運営したり、市長選挙に参加したり、職業体験&市民体験ができる

質問2：「ミニかわごえ」は職業体験イベントのはずだが、「キッザニア」と大分違うがどうか？

「キッザニア」とは東京豊洲にある商業ベースの職業体験施設「キッザニア」のことですが、「キッザニア」と「ミニかわごえ」の間には、基本的な理念の違いがあります。前者は職業体験を目的とする商業施設で、基本は「現場学習」です。それに対して「ミニかわごえ」の基本は「遊び」で、「遊び」を通して「働く」意味を学ぶことがねらいです。「遊び」は子どもたちの精神を開放し想像力を高めます。「キッザニア」では会社がまち全体を企画し、お金を使って設備を整え、

大人が店長をやります。そこでは子どもたちは準備された事しか学べませんが、「ミニかわごえ」では遊びながら自分でまちをつくり、店を運営するので、想像力や創発性が自由に発揮されます。

「キッズニア」の設備（作業場）は現実そっくりに作られて完璧ですが、「ミニかわごえ」の作業場や店舗は素人が作った不完全なものです。しかし欠けたところは子どものイマジネーションが補ってくれるので、欠陥商品も欠陥ではなくなります。

「ミニかわごえ」の特徴の話はそれくらいにして、少し子どもたちの感想を聞いてみましょう。

* 2日とも自分のお店を持って店長をできてよかった。沢山お客さんが来たから忙しかったけれど、それでお金をもらったりするから、わくわくした。市長選もあって本格的だなと思った。お仕事を探して、働いて、全部初めてだったからわからないことばかりだったけれど、みんなで協力して出来たから、楽しかった。お客さんも来てくれたから、ものすごく楽しかった。（小学5年女）

* 色々なお店があって楽しかった。これを通して社会のお金の流れとか、お店の内容とか、色々なことがわかりました。店長はお客さんにわかりやすく説明してお客が楽しく遊んだり、飲み食いしたり買ったりすることができるようにがんばり、市長は税金の使い道を考えて、遊びに来た人が働いたり遊んで町が盛り上がるようにしてくれました。町は全員が協力して出来ているんだな、と思いました。またこの次も頑張りたいです。そして大人になったらまちを変えていく人になりたいです。（小学4年男）



川越工業高校の高校生の意見も少し聞いてみましょう。

* 私はミニかわごえがどんなものかよくわからず参加してみたのですが、小学生と一緒に触れ合うことができたので、とてもよいイベントだと思いました。小学生たちは思ったより礼儀正しく、敬語を使って話せる子が多くてびっくりしました。小学生はとってもミニかわごえを楽しんでいたのので、来年もよいミニかわごえにしたいと思います。

* このイベントを通してわかったことは、まずハローワークへ行き求人票を入手してから就労体験をすることができて、給料で買い物をするという社会型のイベントでした。私たちは労働させる側でしたので、そんなに手伝うことはできませんでしたが、子どもたちが自主的に取り組んでくれたのでよかったです。子どもたちが夢中になって求人票を求め、給料を稼いでいる姿を見て、自分で労働することにやりがいを感じているのだなあということがよくわかりました。

次いで大人の意見も紹介したいのですが、紙数の関係で割愛させていただきます。第3回「ミニかわごえ」は子どもと大人、関係者全員の協力によってなんとか成功裏に終わりました。

なお、「CUKだより」もこれで平成23年度の報告を終わります。小江戸新聞社様に写真提供のお礼を申し上げます。

子ども大学かわごえ

学長 望月 修

事務局

NPO法人子ども大学かわごえ

〒350-1109 川越市霞ヶ関北 3-12-6

霞ヶ関北自治会館内



H-P <http://www.cuk.or.jp>

TEL 080-2053-2991 (事務局直通)

FAX 049-233-1640F

E_MAIL info@cuk.or.jp